エス・ピー・シー　中小の業務一元化に精通
ITで経営管理を支援

ピー・エス・シー（原田敏明社長、本社・東京都足立区）はpage2016のブースD−27に出展する。

独立系IT企業として、すべての商品を自社ブランドで開発・販売する同社は、主力製品の「パワーアップ印刷」「パワーアップ製本」など印刷・製本業向けの業務管理システムを紹介する。

いかなる環境下でも、しっかりと足元を見据えた経営管理を実現するため、中小印刷・製本業向けに見積りから受発注・売上・入金・支払に至るまで、データ一元管理による「トータルシステムを構成していることが特長だ。受発注管理や工程・生産管理、売掛・買掛管理、さらには財務会計や給与計算まで網羅し、中小企業の基幹システムを

ワンストップで提供する。

原田社長は「中小企業が経営を維持発展させていくために必要とする『情報化』『カイゼン』をワンストップで提供することを事業の目的としている。引き続き、厳しい経済状況にある印刷・製本業界だが、仕事はさらなる短納期・小ロット・高品質要求の傾向にある。経営は売上アップ戦略の重要性がさらに増し、生産予定・進捗、採算の〝見える化〟によるコストダウン戦略との両輪で進んでいく必要がある」と、身の丈にあったIT化の重要性を訴えている。

昨年出展し大きな反響があったIGAS2015では、面付けシミュレーション機能、各種販売単価参照機能などを「パワーアップ印刷」見積処理の標準機能として搭載。生産管理ではドラッグ&ドロップによる生産予定の調整やバーコードを使用した工程進捗の「見える化」を披露した。

今回のpage2016でも、個別原価計算により製品別の収益を把握できる機能、スマートフォンやタブレット端末からVPNで本社サーバの生産予定データを閲覧できる機能を紹介。

また、用紙の発注機能としては、毎日一定の時間に指示を行うと、その日に発注すべきデータを自動的に集計して発注書を作成する。

さらに、オプションの「資料ボックスシステム」や「生産予定作成システム」、「進捗管理オプション」を各社で稼働中の基幹システムと連携できるサブシステムとしても使用できるようにカスタマイズして提供する。

同社の業務管理システムは、同社在籍の印刷・製本に精通した中小企業診断士、ITコーディネータがプロデュースしている。また、印刷・製本専門のコンサルティング会社であるGIMS等と提携したシステム導入診断・事業再生診断を行う。

2016年1月から開始されたマイナンバー制度に対しても、円滑な運用のための適切な助言や具体的なサポートを用意している。

◆プライバシーマーク取得コンサル受託中

プライバシーマークの認定取得は、個人情報を取り扱う企業の安全と信頼の証。マイナンバー制度が動き出した今、従業員のためにも必要となっている。

ピー・エス・シーは、プライバシーマークに完全対応のひな型を持ち、数人から数千人の事業規模に対応可能なサービスを提供する。プライバシーマーク審査業務12年600社以上の実績を持つ、元プライバシーマーク主任審査員（日印産連）が、プライバシーマークの認定取得を支援。わずか2人の小規模事業者から従業員1万人以上の大企業まで、ありとあらゆる業種・業態を支援できる。

「パワーアップ印刷」、「パワーアップ製本」を導入の場合、優待価格で見積りを行っている。